

汚れた下着を隠す…

⇒「誰にでもあることだよ」と声をかけましょう

とよさと病院 認知症疾患医療センター

【 認知症の人の状態 】

認知症の症状が進むと、それまで意識しなくてもできていたこと、つまり身体で覚えていた“作業記憶”が徐々にできなくなっていくます。（たとえば、車の運転や服の着脱等）一方で、認知症の症状の出方は、常に悪化していったり、何もかも分からなくなってしまうのではなく、正常な部分も残っている“まだら症状の法則”ため、**羞恥心や自尊心は残ります**。

そのため、下着を汚してしまったときに、「家族に見つかるとうちが恥ずかしい」「怒られるかもしれない」と思い、つい隠してしまいがちですが、今度は隠したことを忘れてしまう場合があります。「なんでこんなことするの?」と責めたりすると、ご本人を傷つけることになり、トイレの失敗を言い出せずに、また嫌な思いをしたくなくて次も同じように下着を隠してしまうかもしれません。

【 対応方法 】

- ①汚れた下着を見つけても、大騒ぎせずに、**さり気なく片付けてください**。下着の交換や掃除が必要なときも、本人が気にしないように「誰にでもあることだから」といった言葉をかけましょう。
- ②ご本人が、汚した下着の処理に困らないように、**汚れた衣類を入れるかごを目に付きやすい場所**に用意しておきましょう。「汚れたものはここに入れておいてね」とその都度**伝えましょう**。「洗濯物はここに入れる」などと**張り紙**をしておくことも、わかりやすいです。
- ③できるだけ失敗を防ぐために、タイミングを見計らって**トイレに誘導**しましょう。そうするうちに、排せつのパターンが見えてきて、だいたい何時くらいに声をかけるとよいかわかってくると思います。排泄で下着を汚したことは、異性に伝えるににくいものです。なるべく**同性**が声をかけましょう。

参考文献：認知症の人と家族の会, 認知症になった家族との暮らしかた, ナツメ社, 2018, P104-105

杉山孝博, 認知症の9大法則50症状と対応策, 法研, 2013, P112-113

2022.6作成

下着の交換や掃除、洗濯など、やれることを淡々とやりましょう

